

06 誰もが学校で快適な標準服に (性的マイノリティ)

(ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。

5

今日は、「性別と服装」についての話題です。福岡市の公立中学校では2020年春から、新たな標準服の導入に伴い、スラックスやスカートなどを選ぶことができるようになりま
す。生徒たちが話をしています。

10

【女子A】スカートより暖かいけん、私、ズボンにしよ。

【女子B】スカートで自転車に乗って風が吹いたら嫌やけど、ズボンなら気にならんね。

15

【男子A】女子は普通スカートやろ？ズボンとか変やない？

【女子A】女子がズボンはいて、何が悪いと？

【男子A】いや別に悪いとかいう訳やないけど…。

【女子A】あ、そうそう。男子もスカート選んでいらしいやん。

20

【女子B】へえ、そうなん？

25

(ナレーター) これまで、学校の標準服と言えば「男子は詰
め襟、女子はセーラー服」で、祖父母の代から70年も続い
た「当たり前のこと」でした。

その標準服が、なぜ替わることになったのでしょうか。福岡市教育委員会は「生徒誰もが安心して快適に学校生活を送ることができるとともに、特別な配慮がなくても自分らしく学校生活を送れるようにしたかったからです」と言います。

30

出発点は、長年声としてあった「標準服の機能性の改善」です。生徒や保護者合わせて1万6千人にアンケートしました。詰め襟とセーラー服が「身動きしにくい」と思っている生徒が全体の6割ぐらいいました。女子からは「ズボンを選びたい」という意見も予想以上にたくさん挙がりました。

35

また、体の性別で制服が決まっていることに悩んでいる生徒の、心の負担も減らしたいと考えたのです。

40

これを受け、生徒も交えて話し合った結果、新しい標準服は男女ともブレザーで、ストラックスかキュロットかスカートを選ぶようになりました。性的マイノリティにも配慮することから生まれた新しい標準服は、体の性別に関係なく、どの生徒も安心して着ることができるようになりました。

45

今、考え方や価値観はどんどん多様化しています。学校でも同じです。標準服が選べるようになったことで、これからはもっと学校生活が快適になりそうです。